

# 2026 年度 事業計画

## <目次>

はじめに	1
I. 第3次中期計画の重点目標に関する取り組み	1
重点目標1.	
「現代的ニーズに応える教育プログラムの展開」	1
重点目標2.	
「教育研究の社会への還元と社会連携の推進」	2
II. 第3次中期計画の分野別アクションプランに関する取り組み	3
1. 教学	3
2. 学生支援	4
3. 施設・設備・環境	5
4. 入試・広報	5
5. 大学運営・人事・組織	6
6. 財務	6
III. 予算の概要について	7
1. 事業活動収支予算の概要	7
2. 基本金組入計画	7
3. 事業活動収支	8

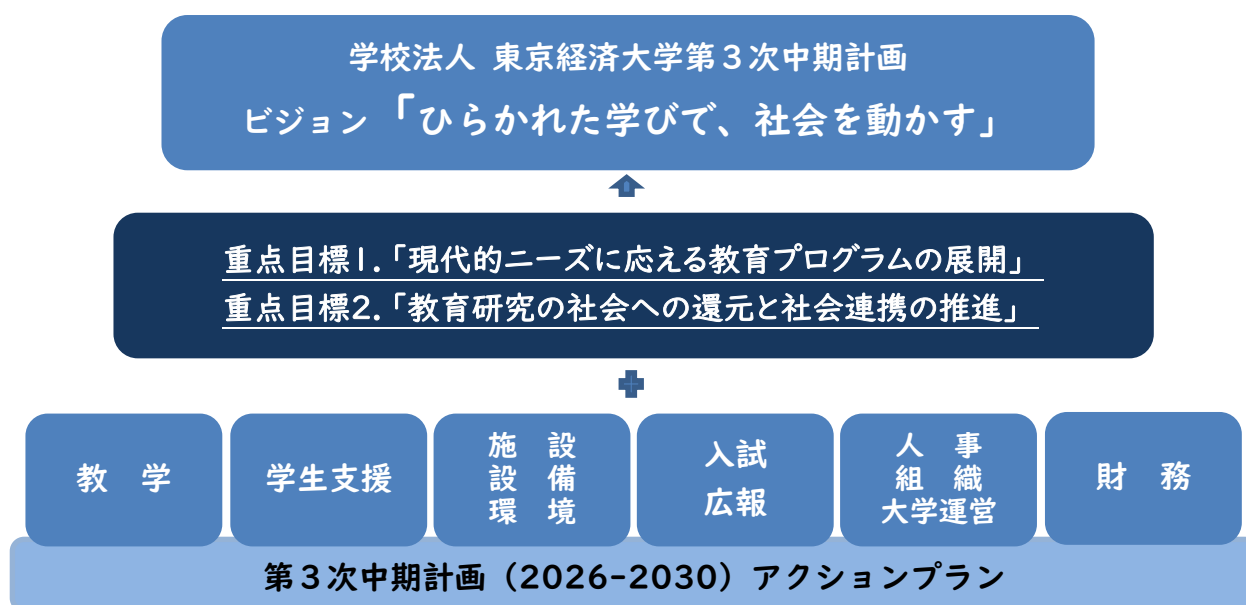
学校法人 東京経済大学

## 2026年度事業計画

### はじめに

学校法人東京経済大学は、2026年度から始まる5年間の第3次中期計画(2026年度～2030年度)を策定しました。この中期計画では、「ひらかれた学びで、社会を動かす」をビジョンとし、本学の伝統と特徴を踏まえ、社会環境の変化に対応した教学改革と大学運営を行うこととしています。また、今後の18歳人口の急減期を見据えて、魅力ある教育プログラムの創出と本学が生み出す教育研究の社会への還元を重要課題とし、6分野(教学、学生支援、施設、入試・広報、人事・組織・大学運営、財務)におけるアクションプランを示しました。これらを着実に実行することにより、有為な人材を輩出し、本学の持続的な発展と社会への貢献を実現します。

その初年度にあたる2026年度は、2026年4月に就任する小川学長のリーダーシップのもと、以下の取り組みを実施することします。



### I. 第3次中期計画の重点目標に関する取り組み

#### 重点目標1.「現代的需要に応える教育プログラムの展開」

「社会科学の総合大学」としての本学の伝統と特徴をさらに強化し、この特徴を最大限活用する教育プログラムの創出に向けた取り組みに着手します。

##### ① 社会的ニーズに対応した魅力ある学位プログラムの設置

・新学位プログラム設置の専門委員会を置き、本学の強みを活かし社会的ニーズに対応した学位プログラムの検討を行い、新学位プログラム設置準備委員会(仮称)の設置を目指します。

## ② 教員組織の質的・量的拡充を目指した人事計画の策定

・既存の学位プログラムの充実と新たな学位プログラムを支える教員組織のあり方を検討し、人員計画を策定します。

・3ポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）に基づく学修者本位の教育をさらに進めるとともに、基幹教員制度導入に向けた制度整備を進めます。

## ③ 学修成果の可視化と教学マネジメントの実質化

・学生の主体的で自律的な学修と自己実現を促す学修ポートフォリオを導入し、その効果的な運用・活用の仕組みをつくります。

・学修成果の可視化に向けた新システムを導入し、多面的な学修データを教育改善に活用します。

## ④ 学生の知的探求心と実践的能力を高めるための教学改革

・教学改革を機動的かつ継続的に進めるための会議体のあり方を検討し、全学及び各学部等の特色ある教育プログラムの改善を図るとともに、社会的要請や国の高等教育政策（改革総合支援事業等）を視野に入れた学修者本位の教学改革を推進します。

## ⑤ 社会の急速な変化に対応できる創造的人材育成

・データサイエンス及び生成 AI に関する教育を一層展開するとともに、全学的な共通基盤として確立することを目指します。

## 重点目標2.「教育研究の社会への還元と社会連携の推進」

本学の「目的」に掲げる「社会の知的センターとしての貢献」「開かれた大学、学生とともにある大学」の理念をより高いレベルで実現する取り組みを展開します。2026年度は、これまでの連携事業の課題を整理し、今後のあり方を検討します。

### ① 高大連携の多様化・高度化の推進

・高大連携の多様化と質的向上を図るため、学内の関連部署の連携を強化し、今後の方向性を検討します。

### ② 地域連携の多様化・高度化の推進

・これまでの国分寺地域を中心とした取り組みを基に、本学が生み出す研究と実践的な地域貢献を両輪とした研究機関の設立を目指します。

・これまでの地域連携活動を発展させ、社会人リカレント教育への対応、教学における地域課題 PBL の拡充、自治体や産業界等と連携した共同研究の展開を前進させます。

### ③ 大学間連携、生涯学習等の強化・拡大

・大学間連携による文理横断・融合教育の展開を検討します。

・本学の特徴を生かした生涯学習、リカレント教育のあり方を整理し、組織的な取り組み方針を策定します。

#### ④ 研究成果の社会への還元への促進

・研究推進支援体制の整備を図り、科学研究費をはじめとする外部資金の採択件数の向上を目指した取り組みを強化します。

・国内外の多様な研究者を招き、本学の教員の研究成果を広く社会に還元するための国際シンポジウムと学術シンポジウムを開催します。

#### ⑤ 連携を推進する専門部署の設置

・本学の社会連携活動を推進するための事務組織の設置に着手します。

## Ⅱ. 第3次中期計画の分野別アクションプランに関する取り組み

以下の6分野についてアクションプランに基づいた取り組みを実施します。

(1) 教学		
	項目	取り組み内容
①	急速な社会環境及び情報技術の変化に対応した教育・学修環境の整備推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内のインターネット利用環境を一層改善し、授業内外でのインターネット活用とBYODを推進します。</li> <li>・ICT機器の活用や遠隔授業の実施等に関する業務支援を行い、多様な教育方法の実現を図ります。</li> <li>・「オープンバッジ」を全学的に導入し、学修履歴や取得スキルの可視化とデジタル化を行います。</li> <li>・オンデマンド授業等を活用した学事暦の柔軟化の可能性を検証し、新たな学事暦の2028年度導入を検討します。</li> </ul>
②	国際交流の推進と多文化共生力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3次中期計画に基づいた2026年度からの新たな目標や方針を掲げた「国際化ビジョン」を策定します。</li> <li>・国際交流・多文化共修チューターが企画・実施する学生主体の多様な活動を後押しします。</li> <li>・グローバルラウンジ「コトパティオ」の一層の活性化と学習センターとの連携強化による正課外における英語学習と多文化共修を推進します。</li> <li>・留学生へのきめ細かい支援と海外派遣学生への経済的支援を実施します。</li> </ul>
③	大学院における高度専門人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院留学指定校との連携強化と相談会の継続的な実施により、質の高い入学者の安定的確保を図ります。</li> <li>・学部からの進学者の増加を図るため、早期卒業制度及び学内入試の周知</li> </ul>

		を強化します。また、優秀な人材の内部進学率の向上に寄与する経済的支援制度の創設を目指します。 ・大学院生の研究活動を支援する助成取扱基準の見直しを行い、より実質的な支援制度を構築します。
④	オープンアクセスの推進	・2025 年に制定した「研究データ管理・公開ポリシー」及び「オープンアクセスポリシー」に基づき、運用状況を確認し、課題を整理するとともに、学術機関リポジトリを整備・充実させ、本学の研究活動で得られた研究成果等を学内外に広く公開し、知的財産の電子的な保存を推進します。
⑤	電子資料およびデータベースの充実	・図書館が有する学術情報データベースの利活用を促進するとともに、学術情報基盤の質的向上を前進させます。

(2) 学生支援		
	項目	取り組み内容
①	多様な学生ニーズに応じた支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生一人ひとりの個性と多様性を尊重し、学生生活、課外活動、キャリア形成、健康管理などの各側面から、学生の自己成長と自立を支援します。</li> <li>・学生団体の自律的な運営を促進するための制度整備とともに、ハラスメント防止策や会計処理の適正化に関する支援を行います。</li> <li>・障がいのある学生に対する支援体制の強化のため、新たに学生支援コーディネーター（障がいのある学生対応）を配置し、全学的な連携による支援の質を高めます。</li> <li>・ピア・サポートに関するこれまでの取り組みを点検・検証し、研修制度の充実やピア・サポートの拡充に向けた検討を行います。</li> <li>・2026 年度より利用を開始する葵レジデンス及び葵テラスに関する運用ルールを策定し、両施設の円滑な運用と学生の学習・生活環境の向上に取り組みます。</li> <li>・学生及び保護者からの問い合わせに 24 時間対応できる AI を利用したシステムの導入と、2025 年度に導入した保証人ポータルを用いた新たな学生支援を検討します。</li> <li>・高校から大学への学びの転換を支援する学習教材の提供に向けた取り組みを開始します。</li> </ul>
②	経済支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な経済的背景を持つ学生を支援する新たな奨学金制度について検討します。また、各種奨学金制度の認知度向上と理解促進を図ります。</li> <li>・次世代リーダーの育成を目指し、起業や社会貢献などの明確な目標と意欲を持つ学生を対象とした「チャレンジ支援型奨学金」の制度設計を行います。</li> </ul>
③	就業支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の採用活動早期化への対応として、1・2 年生への OB・OG 訪問やインターンシップ参加を促すなど低年次からの職業観形成支援に取り組みます。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の採用担当者との交流を強化し、最新の採用情報収集に努め、採用市場の変化に即した学生支援を行います。</li> <li>・志望企業（業界）に在籍する方との交流機会と、就職活動に前向きな学生同士の繋がりを創出し、学生の挑戦を後押しします。</li> <li>・就職活動に関する情報を、先輩から後輩へ共有するピア・サポートの仕組みを作ります。</li> </ul>
④	心と体の健康支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が心身ともに健康的な学生生活を送るために関係部署及び関係教職員が連携し、学生の不適応や不調の早期発見・早期支援を推進するとともに、学生の孤立化防止に取り組みます。</li> <li>・学生の健康意識向上の取り組みと健診結果に基づく適切な保健指導を実施します。</li> </ul>

(3) 施設・設備・環境		
	項目	取り組み内容
①	国分寺キャンパス第2期整備事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2026年7月竣工を目指し葵テラス EAST の施工を進めます。</li> <li>・葵テラス EAST 竣工後、葵陵会館の解体工事に移り、2027年3月までに完了させます。</li> </ul>
②	施設改修計画・設備更新計画に基づく整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国分寺キャンパスにおいて、100周年記念館地下フロア耐震化・LED化工事、電話交換機更新工事、屋外排水管更生工事（守衛所～1号館東ルート）等を行います。</li> <li>・武蔵村山キャンパスにおいて、トイレリニューアル工事、メイングラウンド等の日除け設置工事等を行います。</li> </ul>
③	樹木維持管理計画に基づくキャンパス環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国分寺キャンパスにおいて、樹木維持管理計画に基づく5年目整備（剪定に加えて樹木の育成）を行います。</li> <li>・武蔵村山キャンパスにおいて、樹木維持管理計画に基づく高木剪定を行います。</li> <li>・武蔵村山キャンパスの樹木維持管理計画の更新（剪定に加えて樹木の育成計画の策定）を行います。</li> </ul>
④	防火・防災・防犯対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国分寺キャンパスにおいて、屋外防犯カメラの更新工事を行います。</li> <li>・葵陵会館取り壊し及び葵テラスEASTの竣工に伴い、地区防災センター開設時に使用する施設の一部を葵陵会館から葵テラスEASTへ移転します。</li> </ul>

(4) 入試・広報		
	項目	取り組み内容
①	戦略的広報の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学的に統一されたブランド戦略を策定し、多様なメディアと媒体を効果的に組み合わせた広報活動を展開します。</li> <li>・本学 WEB サイトのリニューアルと SNS の活用により、学生及び教員の多</li> </ul>

		<p>彩な活動を学外(特に受験生)へ訴求する情報発信を行います。</p> <p>・女子学生及び女子志願者の比率の上昇に向けた取り組みを実施します。</p>
②	対面広報の強化	<p>・オープンキャンパスと高校訪問の強化を図り、高校生及び高校教員等へ本学の魅力を直接伝え、本学の理解を深めていただく取り組みを行います。</p>
③	入試制度の見直し	<p>・学習意欲の高い入学者を確保するため、社会的な要請や受験生のニーズに応じた入試制度の見直しを行います。</p>

#### (5) 大学運営・人事・組織

	項目	取り組み内容
①	大学運営	<p>・改正私立学校法の下でスタートする新たな理事会及び大学執行部による適正な大学運営とガバナンスの強化を推進します。</p> <p>・大学基準協会による第4期機関別認証評価を受審し、評価結果に基づいた改善を行います。</p> <p>・役員及び教職員のコンプライアンス意識の一層の浸透を図るとともに、推進体制を再検討します。</p> <p>・本学が策定した「SDGs行動指針」に基づく取り組みを実施します。</p> <p>・業務の効率化を進めるとともに、AIの業務活用に取り組みます。</p> <p>・情報セキュリティに関する対策を強化します。また、情報セキュリティインシデント発生時の体制強化を図ります。</p>
②	人事・組織	<p>i 教員人事</p> <p>・教学改革推進会議及び全学教授会で策定された教員採用方針に基づき、翌年度採用教員の人事を進めます。</p> <p>ii 職員人事・事務組織</p> <p>・関連規程及び計画に基づいた職員採用、人材育成及び研修を実施します。</p> <p>・今後の教職協働を担う職員人材の育成に関する課題の整理を行います。</p> <p>・第3次中期計画を着実に推進する事務体制の構築を進めます。</p>
③	大学、父母の会、葵友会の三者による連携	<p>・大学、父母の会、葵友会の三者が連携を深め、学生への支援(キャリア形成支援、経済的支援、食の支援等)の充実を図ります。</p>
④	大倉喜八郎記念学術芸術振興会の運営	<p>・2026年度は、学術講演2件、芸術講演3件を実施します。</p>
⑤	創立130周年に向けた取り組み	<p>・創立130周年記念事業の取り組みを進めます。</p>

#### (6) 財務

	項目	取り組み内容
①	健全かつ戦略的な財政	<p>・中長期の財政見通しを作成し、安定的な財政運営を行います。</p>

	運営	
②	収入の多様化	・募金活動の活性化を図るため、新たな募金管理システムを導入します。 ・首都圏以外の出身学生の支援を目的とした募金活動を開始します。
③	アセットオーナー・プリンシプル受入表明の検討	・内閣官房により策定されたアセットオーナー・プリンシプル（アセットオーナーの運用・ガバナンス・リスク管理に係る共通の原則）について、受入表明の検討を行います。

### Ⅲ. 予算の概要について

#### 1. 事業活動収支予算の概要

2026年度予算では、事業活動収入 101 億 3 千 2 百万円に対し、事業活動支出 93 億 1 千 2 百万円となり、基本金組入前当年度収支差額は 8 億 2 千万円となります。ここから 13 億 3 千 3 百万円の基本金を組み入れ、当年度収支差額は 5 億 1 千 4 百万円の支出超過を見込みます。

予定されている大きな支出を伴う事業として、国分寺キャンパス第 2 期整備事業等の基本金組入対象費用のほか、100 周年記念館 LED 化工事、屋外排水管更生工事、学修成果可視化システム導入等の経費支出があげられます。

#### 2. 基本金組入計画

##### (1) 第 1 号基本金

施設改修計画に沿った 100 周年記念館地階天井耐震化工事、設備更新計画に沿った電話交換機更新工事や教室の計画的 AV 設備更新、建設仮勘定として国分寺キャンパス第 2 期整備事業にかかる工事費用等、総額では 19 億 7 千 5 百万円の組入額を計上します。

##### (2) 第 2 号基本金

国分寺キャンパス第 2 期整備事業にかかる建設資金の組入れ総額 22 億円のうち、1 億 6 千 6 百万円は 2020 年度に竣工した新次郎池周辺整備工事費用として第 1 号基本金に振替済み、9 億 7 千 3 百万円は 2025 年度末に新葵陵会館（新施設名称「葵テラス EAST」）建設工事費用として第 1 号基本金に振替予定です。2026 年度は新学生会館（新施設名称「葵テラス WEST」）建設工事費用（1 回目支払い）として 7 億 9 千 4 百万円を充当します。第 2 号基本金の 2026 年度の期末残高は 2 億 6 千 7 百万円となる見込みです。

##### (3) 第 4 号基本金

事業活動支出の増加に伴い、学校法人会計基準に則った組入額を計上します。

### 3. 事業活動収支

---

#### (1) 教育活動収支

##### ① 収入

##### (ア) 学生生徒等納付金

・2025年度入学生から授業料等を改定(学部で授業料を5万円増額、大学院で授業料を1万4千円、教育充実費を1万6千円それぞれ減額)したことなどにより増収が期待されますが、2026年度については、入学者数が予定人数を上回った前年度と比較すると、納入者数の減少が見込まれ、前年度(補正後予算、以下同じ)比では2千5百万円ほどの減収を見込みます。

##### (イ) 寄付金

・在学生保証人を対象とした教育振興資金の募金活動を行います。  
・「スポーツ・文化振興募金」「東経の森・水と緑の募金」等からなる寄付金制度「進一層募金」の募金活動を行います。  
・「首都圏以外の出身学生支援募金」を「進一層募金」内に新設し、募金活動を行います。

##### (ウ) 経常費等補助金

・私立大学等経常費補助金について、一般補助では、定員超過率の改善等により補助額の増収を見込みます。一方で、厳密な定員管理、教育研究経費の拡充等による補助額の維持・増収、一般補助の増減率にかかる「教育の質に係る客観的指標」への対応を図ります。特別補助では、既存補助項目の要件を維持するとともに、新たな補助項目への申請の検討を行い、「私立大学等改革総合支援事業」については、選定に向けた検討を行います。  
・国の修学支援制度である授業料等減免費交付金を見込み、同額を奨学費として計上します。

##### (エ) 付随事業収入

・国際交流会館にかかる寮費収入、CSC 講座にかかる収入に加え、2026年度より葵レジデンス(新女子寮)にかかる寮費収入を計上します。

##### (オ) 雑収入

・国分寺キャンパス、武蔵村山キャンパス、国際交流会館での施設貸出にかかる収入を計上します。  
・私立大学退職金財団交付金収入については、2026年度退職者分を見込みます。

##### ② 支出

##### (ア) 人件費

・本事業計画策定時における人員計画に基づき、専任教員数は期首144名、専任職員は同121名を見込みます。  
・教職員の給与については定期昇給を見込みます。

### **(イ) 教育研究経費**

- ・ 経常収入に対する教育研究経費比率は、2025 年度補正後予算の 40.4%を上回る比率を目指します。
- ・ 第3次中期計画に掲げた諸施策を念頭に、「Ⅱ. 分野別アクションプラン」で掲げている各項目について重点的な予算配分を行います。
- ・ 臨時的な経費支出として、施設改修計画に沿った100周年記念館LED化工事等、設備更新計画に沿った図書館ネットワーク機器入替等を計上します。
- ・ 建物修繕等については抑制方針を基盤に、リスク管理、SDGsの推進に関連するものについて予算化します。

### **(ウ) 管理経費**

- ・ 経費節減を旨とし引き続き圧縮に努めます。
- ・ 戦略的広報予算については、認知度向上および本学のブランド力を高める効果的な広報へ予算配分を行います。

## **(2) 教育活動外収支**

### **① 収入**

#### **(ア) 受取利息・配当金**

- ・ 資金運用を巡る情勢の把握に努めるとともに、安全かつ効率的な運用を第一とします。ただし、財政基盤強化の観点からは、理事会管理のもと、2025年度に引き続き、一部資金について積極的な運用を行います。平均利回りは1.3%を目標とします。

## **(3) 特別収支**

### **① 収入**

#### **(ア) 資産売却差額**

- ・ 外貨建債券の償還にかかる為替レートを1米ドル=148円と想定し、有価証券売却差額を見込みます。

以 上